

1.2009年から2019年におけるインフルエンザ報告者に関して

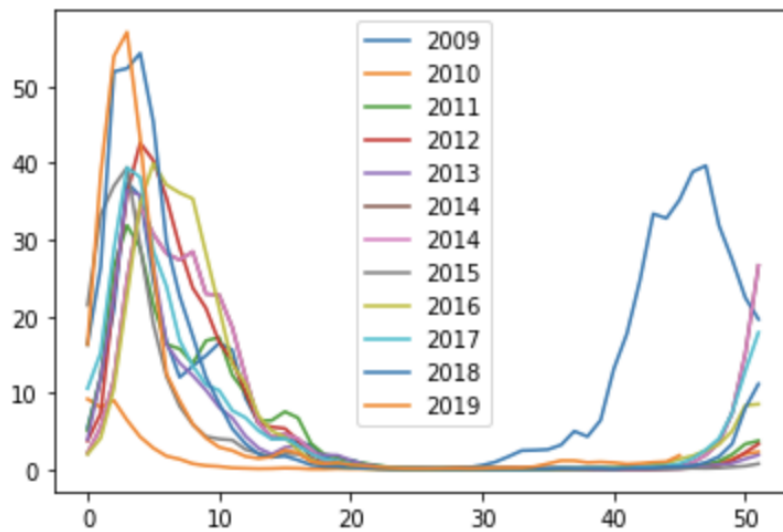


図1.各年毎の折れ線グラフ

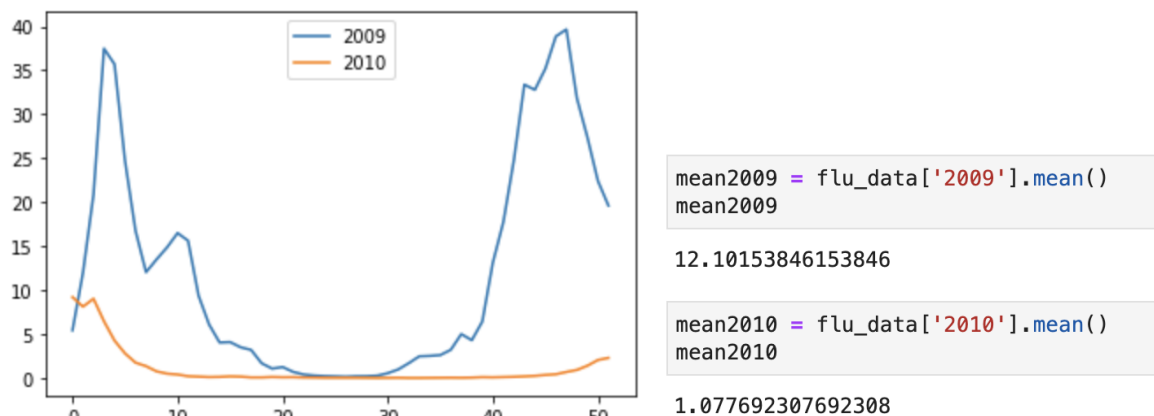


図2-3.2009年、2010年比較グラフ・報告者平均

今回2009年から2019年における51週間毎のインフルエンザ報告者数に関する分析を行った。2009年からの11年中で2009年が最も報告者数が多く、また2010年が最も少なかった。

図1からも分かる通り、2009年と2010年は他の年と比べて報告者数の推移に特徴があり、通常は報告者数が前半部に最も増加し、後半にも緩やかな増加が確認出来るのに対して、2009年では前半と後半に激しい報告者数増加が確認出来る。2010年では1週目が報告者数の最高値を記録し、その年の大半は殆ど0に近い値であった。

平均値に関しても2009年が唯一の2桁を記録し、それに対して2010年は他の年と比べて値の大きな離れが確認出来る。

これらの事から2010年のインフルエンザ流行に際して投与されたインフルエンザワクチンによって、2009年におけるインフルエンザ流行が抑えられたと考えられる。